かもなっ子通信

令和６年２月２日発行
校長室だより　No.７４
（バックナンバーは本校のホームページに掲載しています。）

「キットカット」と環境問題について

校長の奥村　兆男（おくむら　よしお）です。

いつも「かもなっ子通信」をご覧くださり、ありがとうございます。第74号をお届けします。最後までお読みくださいますと幸いです。保護者の皆様には、本校の教育活動にご理解とご支援をいただいておりますことに深く感謝を申しあげます。また、登下校時の交通事故防止に向けて、適切にご対応いただいておりますことに厚くお礼を申しあげます。写真は、節分の前日に加茂名小の花学年に3名のおにが襲来した時の様子です。子どもたちは、3列の迎撃態勢で待ち構えています。ミスチルの櫻井和寿が歌う「はるまついぶき」が聴きたくなる季節です。その「はるまついぶき」ですが、歌詞では「春待つ息吹」となっています。この曲は、以前に「キットカット」のコマーシャルに使われ、「受験生応援ソング」として有名になりました。保護者の皆様も「キットカット」を一度は口にしたことがあると思います。わたしは、「ポイ〇ル」、「たけの〇の里」と並んで、ひいきにしています。

さて、「１月は行く」とはよく言ったもので、１月は足早に過ぎていきました。2月に入り、3日（土）は節分、4日（日）は立春となります。学校では、3学期は１年の総まとめと仕上げをし、１年を締めくくる時です。ところで、その「キットカット」ですが、少し前に外装がプラスチックから紙パッケージに変更となりました。「プラスチックごみ問題」は、「再生可能エネルギー」と並んで環境問題解決の大きな柱の一つで、レジ袋が有料化になったことは記憶に新しいところです。わたし自身、レジ袋が破れるまで大切に使うようになりました。

世界では年間約 800 万トンものプラスチックが、ごみとして海に流れ込んでいるとも推計されています。東京スカイツリーおよそ 222 基分、ジャンボジェット機 5 万機分にもなります。このペースで海のプラスチックが増えていくと、2050 年には、海にいる魚すべての重量よりプラスチックの方が重くなると言われていて、「プラスチックの海」になってしまうのではないかと懸念されています。この海洋プラスチックで、特に問題になっているのが「マイクロプラスチック」と呼ばれているものです。環境中に捨てられたプラスチックごみは、川から海へと至り、波の力や紫外線の影響などで細かく砕けていきます。5ミリ以下になった「マイクロプラスチック」は、世界中の海に存在しています。環境中で自然に分解されることはなく、半永久的にたまり続ける可能性があります。このマイクロプラスチックが、近年、魚や海鳥の体内から大量に見つかっているのです。海の小さな生物がプラスチックをとり込んで、それが食物連鎖で魚や海鳥にとり込まれて検出されているということなので、こうした食物連鎖を通じてヒトの体内にも蓄積しているのではないかと懸念されています。最近では、 WWF(世界自然保護基金)が、「１週間に１人平均5gのプラスチックを体にとり入れていると見られる。」という報告を出しました。プラスチックはわたしたちの体の中にもすでにたまり始めていると見られています。健康への影響については、「病気になったり命を奪う」かというと、まだ研究の途上で具体的なことはよく分かっていません。影響がないか、今まさに世界各国の研究者が調べているところです。特に海に浮かんでいるマイクロプラスチックは、海水中の有害物質が吸着しやすい性質があることが分かっていて、それが濃縮されていくと、人体にも恐らく有害だろうと考えられます。海に広がったマイクロプラスチックを後から回収することはほぼ不可能なので、プラスチックごみ自体を今のうちに減らしていく必要があるというのが最近の流れのようです。

次号は、３月４日（月）に全校朝会で話をする内容についてお伝えしてまいります。